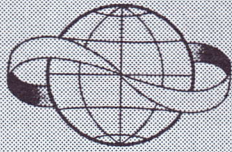


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第24号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
 東京都東村山市久米川町1-16-18
 Tel&Fax 042-395-9788

良策があるのか

プラスチックのリサイクル

多摩地区二五市一町が組織団体となつている二ツ塚廃棄物広域処分場の、平成一三年度の搬入量および貢献度が示された。これを見ると、廃プラスチック類を不燃ごみとして大量に持ち込んだ自治体が、軒並みワーストグループにランクされて多額の課徴金を支払うかたちになった。廃プラスチックのリサイクルが今後のごみ減量廃棄物行政に、避けて通れない緊急課題となつてきた。

昨年の樹脂生産量は約千五百万トン、そしてすべてのプラスチック製品の国内消費量は約一千万トン、そのうち容器包装類が約三百万トンと見込まれている。廃プラの年間排出量も約一千万トンでその五一%は一般廃棄物、四九%が産業廃棄物だと言う。これらの内、素材リサイクルされているものは、ごく少量に過ぎない。因みに二〇〇一年度のペットボトルの生産量は四十万二千トン(前年度比一一%増)で市町村が分別回収した量が十六万一千トン(同二九%増)、回収率が四〇・一%(前年度三四・五%)だった。

このように回収率が高騰しても、回収できなかった絶対量は前年より四千トンも増加している。

プラスチックリサイクルの優等生であるペットボトルにしても、全国自治体の大変な努力と血税そして市民の奉仕によって支えられながら、ようやく四〇%程度の回収率をクリアしたに過ぎない。しかも回収した一六・二万トンの三八・七%しか再商品化していない。再商品化物もその先は難リサイクルの衣料用繊維や卵パックなどにしかなくなってないから悲しい。

さらに、国内で再商品化できなかったペットフレックが、中国など海外に安価で流れ、安い製品となつて逆流して来ているとも聞くが、それなら市民や自治体の苦勞が何だったのか、これでリサイクル循環システムと言えるのか疑問だ。いつの間にか百ミリリットル以下のペットボトルまで無制限に製造され、最も環境に適したガラスびん特にリターナブルびんの生産や使用が減少の一途をたどっている。環境基本法の理念に基づく「リデュース」や「リユース」の促進に逆行する現象がまかり通っている。自治体のリサイクル事業がプラスチック製品の大量生産・大量消費に寄与する結果となつては全くの

本末転倒である。

(社)プラスチック処理促進協会の調査報告(2000年)によると、素材(マテリアル)再利用分は一四%となつているが、三分の二は生産・加工時のロス品を材料としている。油化・高炉原料は一%程度で、固形燃料(二%)、発電付焼却(一九%)、熱利用焼却(一四%)と結局大半は焼却処理している。

未利用分は五〇%で二〇%が単純焼却三〇%が埋立処理されている。廃プラの分別回収コストがkg八百円もかかった市があると言う。可燃ごみと混合収集なら三十円程度。現物のまま圧縮プレスして長期保存し石油枯渇時に備えるのが理想だろうが、今後益々火力発電に依存しなければならぬ国情から見て、その地域の自家資源によるごみ発電の拡大も、循環社会構築の重要課題になるだろう。

環境省は二〇一〇年までに廃プラ発電を一〇施設作る計画を発表した。EU各国も埋立から、焼却熱利用へと方向転換している。プラスチック焼却に対する問題点を完全に解決するのは困難と思うが、このリスクを行政責任にだけ向けるのではなく、勇気ある消費抑制発生抑制につなげる市民運動の拡大こそ必要な時となつてきた。

直言拝聴

「ごみ減量とリサイクル」

西東京市環境防災部 参与

小池 俊夫



私が田無町役場（現在の西東京市）に入職したのは昭和三十六年、以来四一年余を勤めさせて頂いて参りました。入職時は土木の技術者として主に水利を就学したことから下水道部門に携わってきましが昭和六二年八月に市民部清掃課に配置換えとなり、それ以来環境部門を担当することとなりました。当時は行政における資源の再利用がごみ減量に大きな効果があると共に、物を大切にすると云った環境元年に値する時代であったと思います。当時の田無市としても「ごみ減量とリサイクル」と銘打ってモデル地区を公募し、実施しておりましたが、当時、資源収集車両は平ボディー車が当然とされてきたことにより、収集車両の配備に多額な経費を要し、ランニング・コストにペイしないと言う理由から頓挫してしまつた時期でありました。ごみを減らすためには資源の再利用は大変な効果があることは当然のことですが、この収集方法と車両の問題をどう取り組むかが、私に与えられた大きな課題でありました。再度モデル地区を募集したところ市民の方からは「行政は本当にやる気があるのか」と厳しいお叱りを受けましたが、幸い一一自治会から応募を頂

き、試行錯誤を繰り返しながら進めてきました。モデル地区の段階では平ボディー車の台数も少なくて済みますが、全市一斉の回収となると行き詰まってしまう。そこで東資協の紺野さんに「パッカー車で収集できないか」と相談したところ「難しいのでは」と言われ、「何とかならないか」と現場職員とも相談し、通常のごみ収集終了後パッカー車の内部を亀の子タワシで工業石鹸を使い洗浄した後、新聞・雑誌・ダンボールの三品目を収集し、再度紺野さんに見て頂いたところ「これなら何とかなるのでは」と言われ以後新聞・雑誌・ダンボール・缶はパッカー車収集とすることができた。通常収集作業終了後、全車両をスチーム洗浄機を購入し内部まで洗浄することにより資源収集方法にも目途が見えてきたと共に、今まで収集車両の駐車場脇を通る人達はくさい臭いに不快を示していたが、これを契機に臭いもなくなり、市民からは愛される清掃車両に生まれ変わることとなった。収集車両の問題がクリアされたことに伴い、以後モデル地区における資源収集は順調に推進し、平成元年一〇月に市全域一斉の資源収集に着手した。それまで田無市の収集体制は、

燃やせるごみは月曜日から土曜日までの毎日、燃やせないごみと有害ごみは火曜日と金曜日の週二回、粗大ごみは申し込み制による毎日収集の四分別収集であったが、これに資源ごみを加え五分別とした。資源ごみの回収品目は、可燃系資源を新聞・雑誌・ダンボール・古布・牛乳パックの五品目、不燃系資源はびん・缶の二品目計七品目とし前述の通常収集四分別と合わせ、実質一一分別収集となった。

資源ごみ収集の実施前における市民説明会において、市民からは「これだけの資源を別途収集するのだから、燃やせるごみは週三回、燃やせないごみ及び有害ごみは週一回、残る一回を資源ごみ収集にすべきである」との意見を頂き、月・水・金曜日を燃やせるごみ、火曜日を燃やせないごみと有害ごみ、残る木曜日を可燃系資源と不燃系資源の隔週収集日とした。

その結果平成元年一〇月からの半年間で資源ごみ収集量以上の減量効果があり、その数値は、ごみ総量の七%強の減量となった。この後、「資源ごみ」と言う呼称は好ましくないと云うことになり以後、「資源物」に呼び方を統一し、資源物収集は順調に進捗し、翌平成二年度にはなんと、ごみ総量の一

六%強の減量となった。その後、この減量率を引き上げるのには、微々たる上昇に対しても、大変な努力を必要としたのは言うまでもなく、現業職員の日夜に係わらず市民に対する啓発活動に感謝の日々であった。この時期、市長会の下部組織である三多摩清掃協議会(各市町村清掃担当部長組織)でも、ごみ減量による資源分別収集が大きなテーマとなり、更に三多摩地域における廃棄物の最終処分場(当時は日の出町の谷戸沢処分場)が、この先何年も余裕がなく、すぐ満杯となってしまうことが予想され、これを補完すべく第二処分場は未だ計画段階であり、このまま推移進捗すれば、各構成市町ではごみ収集ができなくなってしまう状況下にあった。そこでこの処分場を統括する広域処分組合では、これらに対応すべく資源化を基に各構成市町に対し、最終処分場への搬入は、割当て配分量が定められ、三多摩地域全体で資源収集に取り組むこととなり、その先駆市として、当時は鼻を高くすることができたのも、今思えば東資協の皆様のご協力によるものと感謝している次第であります。

平成五年には多摩ライフ事業が推進され、ごみ減量とリサイクル運動に尚一層の拍車がかかり、我が市が構成参加する柳泉園組合に、多摩ライフ事業から援助を頂き、構成四市統一のリサイクル・センターも完成し現在に至っている。この間、市民の方からは「隔週の資源収集でなく、毎週資源収集を、実施すべし」との意見も大きく、燃やせるごみの収集日をさらに一日減らし毎週可燃・不燃系資源物を収集することとなった。この結果燃やせるごみの収集が週三回から週二回になったことにより、不思議な事に「ごみ収集量が更に二%弱の減量効果が現れた。資源物収集がもたらした効果と同時に、市民の方の知恵がこう言った副産(物)量を生まれさせて頂いたものと考えられます。

前述の三多摩清掃協議会から市長会を通じ、資源化施策の充実を図るべく、各企業に協力と負担を求めよう国に対し意見具申し、現在の家電リサイクル法や、容器包装リサイクル法の成立にも一助を成したものと自負するのは思い過ぎでしょうか？

更に、この後PETボトル・トレイを資源収集に加え一三分別となり、今後は容リ法による「その他プラスチック」の収集も対応することとしている。現在、田無市は保谷市と二〇〇一年一月に合併し、新たに西東京市として生まれ変わりました。合併の結果、旧両市において若干の収集方法に差異があり、この統一に向けて現在努力を進めているところであります。私なりに今まで学んできた清掃行政における「ごみ減量とリサイクル」に対する雑感を申述べさせて頂くとすれば、

人の生活に伴い、ごみは必ず発生し、このごみをただ単に焼却・埋立すればよいと言う時代はとうに過ぎ去っています。地球資源にも限りがあり、このまま資源を無駄に使ってしまう事は子孫の生活さえも奪ってしまう事ともなり兼ねません。「限られた資源の有効利用」をどう対処すべきかが問われています。持続する発展と環境保護を共存させるには一方において廃棄物の発生は防ぎ得ない以上、リサイクルのための技術的開発が必要となり、更に焼却するにしても、埋立処分するにしても、環境に安全な形で行われることが求められています。こうしたことから、廃棄物対策は、より限りなく汚染を少なくさせる技術開発への志向と、廃棄物をリサイクルによって環境汚染の流れに組み込まれ

ることを可能な限りにおいて防止する。この二つの組合わせを進展させて進まなければならないと考えます。環境問題は、「地球的規模での考察と地域を基とした実施」すなわち環境政策は、「地球的規模において捉えなければならぬが、その施策は地域的規模において行わなければならない」事をモットーとして行政・市民・企業者が一体となった「リサイクル社会の確立」に向けて努力を続けて行かなければならないと考えています。

いずれにしてもリサイクル行政は市民協力と共に企業の協力が必要であり、その再生資源物の回収費用は製造責任としての負担があっても良いのでは、そしてその費用を以って回収事業者が責任を持つて製造事業者に引渡し、再利用・再使用の道筋をつけるドイツの「デュアル・システム」のような仕組み作りが必要ではと考えます。真の「リサイクル社会の構築」に向けて再資協の皆さんと行政・市民が一体となって共に頑張りましょう。東多摩再資源化事業協同組合の益々のご発展と、組合員各位のご健勝とご多幸を祈念し、筆を置かせて頂きます。

古紙問題市民行動ネットワーク
制作ビデオ

「まわれ！古紙リサイクル」

の上映と意見交換

去る六月二二日、清瀬市「環境市民スクール」の古紙分別教室にお招きを頂いた。(二〇名ほどの市民が参加)

さらに六月三〇日には、NPO法人『ごみ環境ビジョン21』主催「市民ごみ大学セミナー」で古紙リサイクルの話をする機会を得た。(学生・市民を含め約80名参加)

両会場で先ず、三〇分間古紙ネットのビデオを見て頂き、その感想を伺いながら話を進めていった。回収現場最前線の画像や業者の声を聴いて古紙流通の問題点に、リサイクルに精通した市民の方も予想以上のインパクトを感じた様子で、改めてビデオの効能を知った。

特に、あれほど苦勞をして回収・選別した古紙が、ただ同然で流通している現実と業界の窮状を、回収業者が何十回訴えるよりも効果的に納得してもらえた。

また、学生の皆さんも、なんとなく描いていたリサイクルに対するイメージをかなり修正したと言いうコメントもあり、今後さらにリ

サイクル活動に関心をもつても頂く機会になったようだ。

実際に毎日古紙のリサイクルに携わっている市民にとって、どのようなに分別したらよいか解らないものが多過ぎると言う声や、なぜ分けなければならぬのか、なぜ禁忌品なのか根本的な部分の質問もたくさん出て、最後にはこんなややこしい資源回収をなぜ市民や自治体が犠牲になってやらなければならぬのかと、発生抑制策や製造者責任そしてリサイクル法に対する疑問へと議論が広がった。



「市民ごみ大学セミナー」で講演する紺野理事長

七月十一日 衆院第二議員会館でリサイクルシステム議員懇談会が開かれた。

この懇談会はリサイクルに関わりの深い超党派の衆議院議員と日本再生資源事業協同組合連合会との間で平成五年に結成された。

今回は、古紙ネット制作ビデオ「まわれ！古紙リサイクル」の上映と意見交換がテーマだった。出席者は 衆議院議員六名、経済産業省六名・環境省四名・古紙ネット五名・業者九名。

参加した議員はじめ経済産業省や環境省の担当者も、メモを取りながら熱心に観ていて、ビデオの内容に対しても高い評価のコメントがあった。

リサイクルビデオと言っても、関連団体や企業また自治体などの制作したものはたくさん見られるが、市民の目で市民の手で作ったことに新鮮さや公平さを感じたと

将来のプラスチック・リサイクルの本格化に備えて

「廃プラスチック再生処理現場を見学して」

去る六月十四日(金)、小平市のはからいで、プラスチックボトル再生処理工場(株)ビーカム(埼玉県東松山市)見学会に参加させていただいた。

(株)ビーカムは、廃プラスチックを選別・破碎処理して、植木鉢(プランター)などの再生商品を製造

思う。

意見交換では、新聞収納用茶袋や紙紐など現状、古紙輸出や価格問題と今後の対応、廃掃法やリサイクル法の改定など活発な質疑応答があった。

今回のビデオは、古紙の問題に絞ってほんの一部を紹介したに過ぎないが、このまま終わるのではなく資源業界自身がリサイクル事業全般を精査して、市民の目線に立った問題提起や提言を行なうPR活動を継続してゆかなければならないと痛感した。

(日資連・古紙委員長 紺野武郎)

「ビデオの問合わせ先」

古紙問題市民行動ネットワーク
(TEL&FAX)

〇三―三七―三―三二二

するための原材料(以下、ペレット)を生産している会社である。

現在、同社は小平市・東大和市・武蔵村山市(いずれも東京)・和光市(埼玉)の4市を扱っている。

同社の廃プラスチックの再商品化方法は次の通りである。

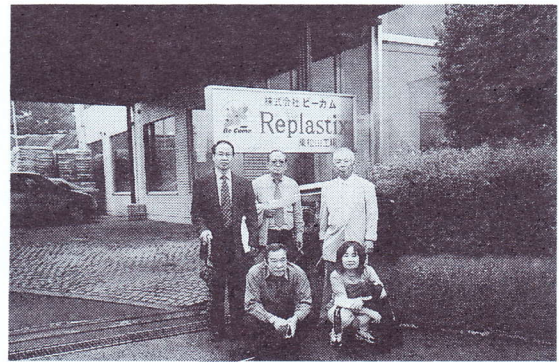
①運ばれてきた廃プラスチックボ

トルのプレス物を解包(バラバラにほぐく)して、供給ピットに入
れ、ピット上で禁忌品を選別する。

②素材別選別コンベアーに送り、
作業員の手作業や近赤外線を利用
して、再商品化出来る廃プラスチック
と出来ない廃プラスチックに
選別する。再商品化出来る廃プラ
スチックは、製品・形状・色調等
の素材別に選別して、破砕機に送
る。また、再商品化出来ない廃プ
ラスチックは残渣として集めて、
固形燃料を作るために燃料製造会
社に運ぶ。(固形燃料製造費一k
g二五円を燃料製造会社に支払
う。)

③破砕機での素材別破砕や、洗
浄・乾燥作業の後、ペレット化し
て梱包し、リサイクル製品生産事
業者に販売しているようだ。

同社は、全体で二五〜二六名の
作業員で、一日約五トンのプラス
チックボトルを処理しており、稼
働率は約七〇〜八〇%である。
(作業能力は、各行政から運ばれ
てくる物の状態によって異なる。)
また、設備機器は、ドイツ・オー
ストリア・イタリアなどのヨーロ
ッパ製で、費用は破砕機一台二〇
〇〇万円など、全体で約四億円に
なることである。
同社の説明によると、現在運ばれ



廃プラスチック再生処理工場・(株)ビーカムにて

てくる廃プラスチックは、単一
素材で再商品化するのは不可能
で、複合素材で再商品化してい
るという。

しかし、それでも半分以上は残
渣となってしまうため、リサイク
ル率は、今の所約四五〜四八%に
留まっているということである。

同社では、将来の廃プラスチック
のリサイクルの本格化に向けて、
再資源化率五〇%以上の目標を定
めて今後も努力していくつもりだ
が、そのためにも各行政に対し廃
プラスチックを排出する際のより
一層の分別の徹底を図ってもらい
たいと説明していた。

実際に廃プラスチックを選別す
る中で、タイヤ・注射針などの医

療機器・電池などの禁忌品がかな
り出てくるそうで、同社では、こ
のような禁忌品は、出来れば各行
政へ返却したいとまで訴えていた。
資源循環型社会形成の一環とし
ての容器包装リサイクルの推進に
伴い、現在年間三〇〇万トンも排
出されている廃プラスチックのリ

サイクルが、今後本格化すること
が予想される。これに備えて、禁
忌品の分別の徹底を図り、現状で
排出量の半分にも満たない廃プラ
スチックのリサイクル率をいかに
低コストで上げていくか、資源循
環型社会を形成していく上で大き
く問われる課題となってきた。

第10回TAMAとことん討論会

開催のお知らせ

来る10月19日(土)、20日(日)に第10回TAMAとことん
討論会が開催されます。環境問題やリサイクルについての全体討論・各
種分科会も用意されています。市民の皆様と共に資源循環型社会の形成
について話し合える良い機会ですので、是非、ふるってご参加下さい!
尚、詳細については下記の通りです。

<日時>2002年10月19日(土) 午前11時30分より
20日(日) 午前9時30分より

<場所>パルテノン多摩

(住所:多摩市落合2-35)

※多摩センター駅(京王線・小田急線・多摩モノレール)
より徒歩約5分

[参加申し込み等問合せ先]

第10回TAMAとことん討論会実行委員会

TEL:090-3818-7006

FAX:042-357-4554

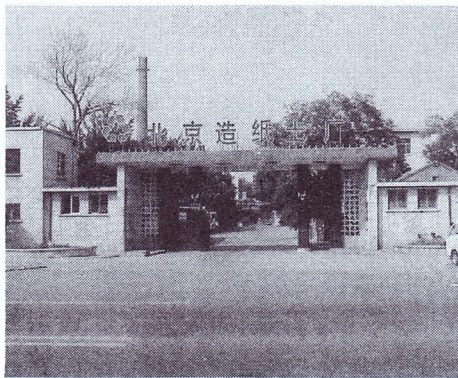
中国・北京の古紙事情視察記

昨年十一月に上海の製紙会社、景興紙業を見学してから機会があれば北京に行き、古紙回収現場を見学したいと思うようになりました。私の取引先に中国、東南アジアに古紙を輸出していて、北京に事務所を構えている古紙問屋があるので、北京行きの願いを打診したところ、七月上旬なら現地スタッフも案内できるからオーケイとの返事もらいました。

十一日～十四日の日程で関西空港集合出発です。宿泊先の王府井大飯店は、北京の中心に位置する故宮博物院の近くに在ります。街は上海と違い人や車も少なく、きちんと整備された所です。古い町並みも在りましたが、オリンピック開催までに取り壊すようです。

二日目に今回の目的の一つである製紙会社、北京造紙七廠の見学です。ホテルから二時間ぐらい離れた北京通州区の高速道路のインター近くにありました。工場に着くと、社長の張さんに迎えられ、会談と、工場内の古紙置き場、選別現場、マシン、古紙集荷現場を見学させていただきました。

社長との会談のなかで、工場は



北京の製紙会社「北京造紙七廠」

ライナーとトイレットペーパーを製造し、古紙原料は自前の集荷ルートをもっているそうです。古紙は輸入しなくとも、北京では製紙会社が当社しかないので原料の入荷不安はないが、原料が全てバラで入って来るために、ストックするのに広大な土地が必要になってしまいうそうです。無駄な土地を使わなくて済むように、又原料を移動させるためにもベラーマシンが欲しいとの話でした。実際に見に行くと、選別現場では、山になった裁落をバツタンコのような機械に入れ、七〇kgぐらいの大きさにプレスして整理してました。

工場見学後、工場からさらに一時間離れた場所にある自前の回収現場に案内されました。二〇〇坪ぐらいの敷地に事務所があるだけの露天の空き地に、上質の裁落が二十四時間入って来るそうです。

驚いたのは、北京から三時間も離れている田園地帯のこの一帯に、三〇〇件の同規模の資源物取扱商店が在ることです。裾物を扱うところも在り、入り口に値段を張り出している所もありました。公共の台貫所もあり、原料を車幅より一m位はみ出したトラックが走り回っています。

社長に、なぜ市内からこの様な離れた地域に商店がたくさん在るのか質問したところ、市内だと土地を借りるのにお金がかかるが、この地域は無料で土地を使うことが出来るので多いそうです。

社長にお礼を申し上げホテルまで送ってもらい、工場見学は無事終了致しました。

四日目帰国当日

朝七時より、北京のはずれにある再生資源を扱う建場の集合団地のような場所に見学に行きました。団地は政府の管理の下で運営されていて、数名の役人がガードしていました。AM七時よりPM七時まで門が開くそうです。一万坪ぐ



北京市郊外の古紙専門店の積み込み風景

らしいの敷地に専門店ごとに一商店一〇〇坪程度のスペースで一〇〇軒ほど入っていました。古紙も在りますが、鉄、非鉄、ペットボトル、ビニール袋、廃材、再生できる商品は全てそろっているようです。公共の台貫も在りました。個別に買い込むの自分で集めて来るのか各店、品物はたくさん積み込んでいました。この様な場所が市内に十五ヶ所ほどあり、働いているのは地方から来た人らしいです。

今回の見学では、集荷現場と販売市場を見る事が出来なかったの、また機会があれば取材して報告したいと思えます。(吉浦)

米国の古紙市況について

AOCC〔段ボール古紙〕

米国西海岸での段ボール古紙輸出価格は、6月に165\$+ α まで価格が上昇したが、7月後半より中国をはじめとした東南アジア客先が買いをストップしたため、現在は105\$から110\$に下がっている。実際の荷動きは芳しくなく、一部引き合いのあるものはここから更に5\$安定度の100\$の価格が提示されている。

一方で西海岸での米国内向け価格は、店頭渡し価格で7月130\$から140\$だったものが8月には115\$まで下がっている。輸出と同条件の港渡し価格では120\$から125\$であり、下がったとはいえ米国内価格は輸出価格に比べ大幅に高く、国内需要は堅調に推移していることから、国内向けに注力する古紙屋が多くなっている。

従来米国では輸出価格が国内価格を5\$から10\$上回るのが通常で、東海岸でも同様に価格の逆転現象が起きており、非常に稀な状況が出現している。

回収量は夏場ということ差し引いても大きく落ち込んでおり、荷が少ないことからドア価格で仕入競争が起きている。それでも入荷は非常に悪く、各社とも在庫は殆ど持っていないため、中国の買いが戻ればマーケット価格は再び反転すると予測する向きが多い。

ONP〔新聞古紙〕

段ボール古紙ほどではないが6月に115\$前後だった輸出価格が7月には110\$に下がった。輸出数量も減少した。国内向けは堅調

MIX〔雑誌古紙〕

中国からの引き合いが止まったため、6月82\$だった輸出価格が7月60\$まで大きく値下がりした。

以上が米国での古紙市況の現状です。米国内価格は古紙三品ともに上記の値段で取り引きされており、これに比べて日本の古紙三品の価格は安いレベルにあります。

従いまして日本産古紙は品質、価格ともに強い国際競争力を持っており、海外での古紙需要マーケットが拡大している現在、国内の需要に全て依存する体質から、海外マーケットを含めた需要に対応する体質に切り替えることが古紙業界に必要な事ではないでしょうか。

以上

(長沢常憲)

アメリカの機密文書の処理風景



機密文書の入った専用ボックス
(デスクの側に置いて施錠)



機密文書はボックスごと回収され、
シュレッダー処理後プレス化する

「ごみ焼却灰がセメントに生まれ変わる

多摩地域でのエコセメント事業の取り組み

「東京都多摩地域廃棄物広域処分組合」は、この程、以前よりごみの最終処分場延命対策として検討していた「エコセメント事業」の実施計画をまとめた。この秋には、PFI方式（公設・民営方式）で事業公募を行う予定である。

エコセメントとは、セメントの主原料となる石灰石と粘土の一部をごみ焼却灰に置き換えて製造した再生セメントで、ごみ焼却灰と下水汚泥を原料に混ぜ、一四〇〇度の温度で焼いているため、ダイオキシン類も分解され、強度や耐久性は普通のセメントと変わりないものである。

処分組合では、平成一七年度末に施設の稼働を予定しており、一日当りごみ焼却灰約三〇〇トンから約四三〇トンのエコセメントを製造する計画である。これにより、平成二五年度で満杯になると予想される処分場の寿命を、平成四〇年度まで維持することが出来るというのが、処分組合の見通しである。

現在三多摩地区では、リサイクルが進んできていること、ごみの有料化を取り入れる市町村が増え

てきていること等により、ごみ焼却灰の量が約一割前後減少している。

そのため、処分組合では、焼却灰の処理量を約三〇〇トン/日にするよう計画しているということである。

また、エコセメント事業用の施設の建設について処分組合では、東京・日の出町の二ツ塚処分場内の四・六ヘクタールの用地に約二六五億円の費用をかけて建設する予定にしている。

施設の運営費用は、年間約三二億円かかると予測しており、仮に年間約九万三〇〇〇トンの焼却灰が持ち込まれるとすると、約三万四〇〇〇円/トンの運営費用がかかる」と計算している。

ところで処分組合では、ごみの焼却灰の処理にエコセメントを採用することにした理由について、「廃棄物をスラグ（被溶解物中の無機質が溶融してガラス質になったもの）にして資源化するガス化

溶融炉方式や、焼却炉に施設を後付けして焼却灰だけをスラグ化する方法などもあるが、溶融炉の場合、焼却灰はスラグ化できても、

飛灰までは溶融できない。しかし、エコセメントならば、飛灰まで処理できるので採用することにした」と言っている。

一方、エコセメントには、以前より鉄筋構造物に用いるとサビの原因になる「塩素」が含まれているという問題があるとされてきた。そのためエコセメントは、「テトラポット」、「インターロック」などの無鉄筋構造物に用途が限られていると言われていた。

しかし、実証実験などで普通のセメントとしても問題がないことが証明されたため、経済産業省は、一九九九年七月に正式にエコセメントをJISとして制定した。

エコセメントが、JIS化されたことで、今後用途が広がり、エコセメントの生産量が増えることで、ごみの焼却灰の処理が進むことは、資源循環型社会の形成にとって画期的な事になるであろう。

小平市、九月から集団回収業者補助を開始

小平市は、集団回収で、出される新聞、雑誌、段ボールについて一kg三円の補助金を、九月より回収を行っている業者に出す事を決定しました。

これは、今までは集団回収を行なう場合、業者補助がないため業者が団体に二〜四円逆有償にせざるをえない状況になっており、これを解消し集団回収の推進と拡大を目的としたものです。

七月三〇日、小平市民センターに於いて、市の集団回収に携わっている業者に対する市の説明会が行なわれました。

小平市も、集団回収業務委託を行なっている各市（西東京、東村山、東久留米、清瀬）同様、当組合が一括委託する方式で行ない、補助金の交付は年二回、回収団体は市に登録されていることなどの説明がありました。

また市としては、行政回収から集団回収への移行を働きかけていきたいとの話があり、今後集団回収の推進に努めるとの方針が示されました。

長年にわたって要望していた回収業者への補助金が実施されることになり、多摩地区では、立川市・武蔵村山市以外のほとんどの自治体で業者助成が実施されることになりました。

回収団体、行政、回収業者、組合が共に協力し合い、循環型リサイクル社会の実現を図っていききたいと思えます。（小畑）

小平市リサイクル・フェスティバルが開催される

去る九月八日(日)午前十時より、小平市福祉会館前広場で小平市リサイクル・フェスティバルが開催された。

この中で当組合は、従来からのスチール缶・アルミ缶などのプレスの展示、トイレットペーパー「ブーメラン」の販売などに加えて、古紙と禁忌品の分別クイズ、プラスチック容器の減容化の展示、古紙ネットビデオ「まわれ!古紙リサイクル」の放映などの新たな出展を行なった。



小平市リサイクル・フェスティバルの様子

●シンポジウム

午後〇時三〇分からは、小平市福祉会館五階市民ホールにおいて「市民みずからが出来ること〜ごみ減量リサイクル推進に向けて〜」。というテーマで、小平市主催のシンポジウムが開催された。

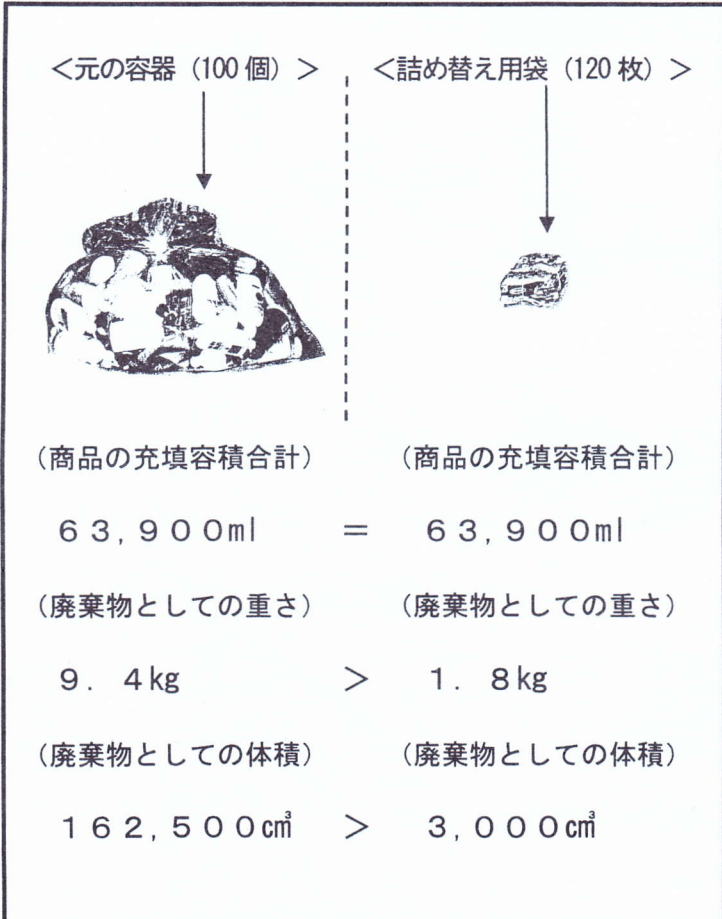
まず、戸村信夫氏(㈱循環社会研究所代表)による基調講演が行なわれた。基調講演の中で戸村氏は、資源循環型社会の形成を目指すためには、市民が自発的にごみ減量活動に取り組むようになることが大切だと述べられた。また、そのためにごみの有料化と市民への還元システムの充実や、市民自らがごみ減量に対する提案や目標設定を具体的にこなせるような体制作りが必要だとも説明された。

基調講演に続いて、コーディネータに戸村氏を、パネラーに後藤弘太郎氏(公団小平団地自治会副会長)、当組合の紺野理事長、高橋直氏(文化女子大学専任講師)、日比野小夜子氏(武蔵野市・集団回収団体会員)を招いてパネル・ディスカッションが行なわれた。ディスカッションでは、市民自らがごみ減量とリサイクルに取り組むためには、ごみと資源の分別などについて行政・市民・資源回収業界が話し合える場をもっと多く設けるなど、市民にとって分かり易い方法でリサイクル活動に参加できるように体制作りが必要だという結論がまとまった。

●まず出来ることからやろう! 廃プラスチック減量運動

廃棄物として出されるプラスチックは、シャンプー、リンス、ボディソープなどの元の容器そのものを使って捨ててしまう場合と、詰め替え用袋を利用して元の容器の中味を何回も詰め替えて使う場合とでは、商品の充填容積は同じでも、出てくる廃棄物としての重さや体積は左の図のように大幅に違ってくる。このデータから明らかに、詰め替え用袋を利用して元の容器で解りました。

詰め替え用袋を利用して元の容器の中味を何回も詰め替えて使うように市民一人一人が心掛ければ、廃プラスチックは激減すると思います。よろしくご協力をお願いします。



組合運営に若い力の台頭を目指して

～青年部設立総会が開催される～

去る七月五日(金)、組合事務所
で青年部の設立総会が、青年部設
立準備委員会主催で開催された。

司会を担当した白戸亜矢子委員の
開会宣言と、土井健一郎委員長の
挨拶の後、議長に柿崎正則委員が
選出されて議事の進行に入った。

議事では、青年部規約・平成十
四年度事業計画・会計方針が承認
され、併せて土井健一郎新青年部
長及び部員、役員が承認された。

議事終了後、設立総会に来賓と
して参加して頂いた日資連青年部
長・松本貞行氏と東資協副青年部
長・岩窪宏明氏より祝辞を頂戴し
た。また、大阪府再生資源事業協
同組合青年部代表・尾上学氏より、
当組合のEメールにお寄せ頂いた
祝辞も披露された。更に、当組合
より参加して頂いた紺野理事長以
下組合理事三役と青年部担当理事
などからも祝辞と激励の言葉を頂
いた。

最後に、土井健一郎青年部長が
青年部設立承認に対する御礼と今
後の抱負を述べて、設立総会は無
事終了した。

設立総会終了後、土井健一郎青
年部長と来賓の日資連青年部長・



青年部設立総会・懇談会の様子

松本貞行氏をコーディネーターと
して、会場の出席者も参加して、
「今後の組合青年部の在り方」と
いうテーマで懇談会を開催した。

懇談会では、今後の組合青年部
の在り方について様々な意見が出
たが、結論は、親組合から言われ
たことを忠実に実行するだけでな
く、自分達から率先して行動を起
こすことが必要だということだま
とまり、懇談会も無事終了した。

〔新青年部員抱負〕

部長 土井 健一郎

七月五日に、設立総会を無事に
終えて、現在は、小平市リサイク
ルフェスティバルに参加するなど、
活動も積極的に行って、部員も仕
事の合間をみながらがんばってい
ます。

青年部の活動で、一番重きを置
いているのはこの様な、イベント
に積極的に参加し、再資協の活動
に協力して行く事です。先日も、
理事長が話していましたが、業界
のアピールだけではなく各イベン
トでの、ボランティア活動が大切
な事です。それを実行できるのは、
我々青年部だと思っています。

組合理事も、今後の青年部の活
動を、期待していると思いますの
で、期待を裏切らず、またオーバ
ーワークにならない様に、部員一
同これから頑張つて行きたいと思
います。

幹事 紺野 琢生

幹事という仕事は定例会や総
会、その他のイベントの企画から
運営までを取り仕切る実働部隊で
あり、雑務も多く大変ではござい
ますが、同じく幹事の藤野さんや
会計事務の柿崎君とともに職務を

全うしていく所存です。

そして土井青年部長を下からど
んどん突き上げるとともに、他の
青年部員を引っ張っていけるよう
に努力したいと思ひますので今後
ともご指導ご鞭撻のほどよろしく
お願いいたします。

土井青年部長も覚悟しておいて
ください。

幹事 藤野 理広

今後は、再資協青年部員として
一意専心の決意を持って、組合の
事業に貢献していきたいと思ひま
す。

事務・会計 柿崎 正則

再資協青年部員の事務・会計担
当として、組合とのよきパイボ
となり、土井青年部長以下役員の
方々を支えていけるように頑張り
たいと思ひます。宜しくお願い致
します。

部員 白戸 亜矢子

この度、青年部に参加させて頂
く事となり、この機会に自分の携
わる仕事を理解するためにも、出
来るだけ会合または勉強会に率先
して参加し、自分の仕事为社会に
どのくらい役立っているのか知り
たいと思ひます。

私の履歴書

川島商店 店主

川島 正行

私は、昭和七年二月六日、東京・江戸川区亀戸で四人兄弟(姉・私・弟・妹)の長男として生まれまし

た。私達一家は、私が生まれてすぐ同じ区内の小松川に引っ越し、そこで少年時代を送りました。当時、実家では氷業を営みながら(冷蔵庫のない時代でしたので)、他に軽飲食なども営業し、使用人もおりましたので、不自由する事もなく送る事が出来ました。

やがて、昭和二十年三月十日の東京大空襲を前後して強制疎開となり、埼玉県所沢市に疎開しました。

終戦の翌年、父が他界しましたが、母は現在九十二歳になりました。戦後のただでさえ厳しい生活の中で、母が一人所沢駅前のマーケット内でお菓子屋を営みながら、家計を支えていました。

私は所沢県立高校に転校し、毎日授業が終わるとそのまま母の店の手伝いをしたり、後に就職する事になる資源回収問屋(株)長田屋でアルバイトをして家計を助けて参りました。そんな中でも、母の店

の手伝いをする時は、毎週土・日の度に上野迄商品の仕入れに行かなければならなかった事が一番大変でした。この様な苦勞の多い青春時代でしたが、良き同級生達にも恵まれ、高校卒業したのが昭和二十五年でしたので、「二十五年会」と言う名の元で現在でも続いており、新年会を楽しみにしております。

卒業後、学生の時からアルバイトをしていた(株)長田屋に就職しました。長田屋は伯父に当ります母の兄が営んでいる店で、何でも扱う今で言う再生資源回収問屋です。その頃店では、近くに軍需工場があったため、軍用飛行機の解体した時に出る非鉄金属を最も多く扱っておりました。

私は、この店で七年程家から通いながら番頭として勤めました。毎日品物をトラックに積んで、鉄・非鉄は深川へ、紙・古布は日暮里へ、ビン等は勝鬃橋へと言う風に専門の再生処理業者の所迄運んでいました。

この頃は、数ある品物の中でも毛糸(モス)が高く売れていました。

また、進駐軍の将校さん達が残していった空き缶をつぶして作ったブリキを何枚も重ねて結束し、

担いでトラックに積んだのが一番辛かった事、日曜日に紙を日暮里の業者に運んだ時、丁度出勤していた先方の若い衆(小僧)達に、休みの日に来られても困ると怒られてけんかをした事などの苦しい思い出があります。

また、この頃の私の楽しみと言えば、友達と酒を飲みに行ったり、ダンスや映画と毎晩のように遊び歩く事でした。

昭和三十二年八月、独立して現在の東村山市栄町に川島商店を開業しました。開業当時は、中古の三輪車やリヤカーを購入して、ほとんど休みなしで営業してました。営業していて一番驚いたのは、骨董品を一つ千円位の値段で業者が買いにきた事でした。

昭和四十八年にオイルショックが起こり、毎年正月に欠かさず行っている成田山新勝寺参りの帰りに、都心のネオンが全て消えているのを目の当たりにしてショックでした。商売の方では、鉄・紙の値段が上がり、一時的とは言え良くなりました。鉄などトラックに

いっばい積んで、夜中から早朝にかけて製鉄所に運んだものでした。

昭和三十三年、保健所から再生資源取扱業許可を得るよう要請され、許可を得るには個人よりも組

合に入って申請した方がいいと勧められ、当時の東資協田無支部に入会し、東多摩支部を経て、現在の東多摩再資協の組合員になりました。

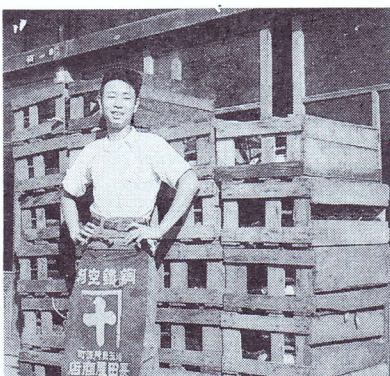
昭和三十四年に結婚、子供三人(一女二男)に恵まれ、昭和四十三年、店を建て直して現在の店舗で営業する事になりました。

そして平成三年、私が体調を崩したため、息子二人に店を任せる事になりました。

現在では、鉄・非鉄金属の引取り、組合の仕事(市の行政回収、集団回収)を行っております。

将来は、引き続き二人の息子を中心に店を切り盛りして貰い、組合の仕事もしっかり従事しながら、店を続けられる様に頑張っていきたいと思っております。

今後とも組合の皆様におかれましては宜しくお願い致します。



資源回収問屋(株)長田屋にて

東村山市がごみの有料化を実施へ

東村山市では、来る十月一日より、可燃ごみと不燃ごみについて有料化を実施することになった。有料化が実施されると、一般家庭及び小規模事業所は、市指定の収集袋を購入してごみを出さなければならなくなる。

また、収集方法も一戸建て住宅の場合は、今までの集積所収集から、住宅ごとの戸別収集に変更になるという。(マンション・アパートなどの集合住宅の場合は、専用の集積所を設けて収集する。)

東村山市では、ごみの有料化の実施に踏み切る理由として、①秋水園や二ツ塚処分場(東京・日の出町)のごみ処理能力が限界に近づいて来ていること、②行政・市民・事業者の三者が、それぞれにごみ減量やリサイクルに責任を持ち、そのための役割分担と費用負担を明確にした協力関係を構築しなければならぬことなどを挙げている。

我々資源回収業界としては、今回のごみ有料化の実施によって市民のごみ問題に対する意識が今よりもっと高まり、ごみ減量とリサイクルが更に推進されてゆくことを大いに期待したい。

行事・行動

【五月】

- 一日：小平RC責任者会議
- 一〇日：東村山市廃棄物減量審
： 定例理事会
- 一一日：通常総会
- 一三日：
- 一四日：日資連総会
- 一五日：西東京市廃棄物減量審
- 二〇日：小平RC責任者会議
- 二四日：東資協総会
- 二七日：柳泉園RC責任者会議
- 二八日：広報委員会
- 三〇日：古紙センター・業務委

【六月】

- 六日：中央会で講演
- 一一日：段ボールR協議会
- 一一日：定例理事会
- 一三日：古紙センター理事会
： 多摩R団連・幹事会
- 一六日：日資連・鳥取大会
- 一七日：青年部設立準備委員会
- 一八日：西東京市廃棄物減量審
： 福利厚生委員会
- 二〇日：古紙循環プロジェクト
- 二二日：清瀬市古紙分別教室
： 小平RC責任者会議
- 二八日：中央会理事会
- 三〇日：「ごみ環境ビジョン」市民
ごみ環境大学セミナー

【七月】

- 二日：日資連・理事会
- 四日：青年部設立準備委員会
- 五日：青年部設立総会
- 九日：西東京市廃棄物減量審
- 一日：定例理事会
： リサイクル議員懇
- 十五日：小平市廃棄物減量審
- 十八日：財務委員会
- 十九日：小平RC責任者会議
- 二三日：青年部会議
- 二五日：古紙センター・業務委
： 広報委員会
- 二七日：日資連・理事会
- 二九日：リサイクル議員懇
： 福利厚生委員会
- 三〇日：西東京市廃棄物減量審
： 小平市集団回収業者会
- 三一日：家族慰安会
： 東大和市廃棄物減量審

【八月】

- 二日：関資連・理事会
- 五日：小平市廃棄物減量審
- 八日：小平RC責任者会議
- 九日：定例理事会
- 一三日：多摩R団連・幹事会
- 一六日：広報委員会
- 二〇日：西東京市廃棄物減量審
： 古紙循環プロジェクト
- 二二日：小平リサイクル・フェス
ティバル実行委員会

- 二六日：青年部会議
- 二九日：東村山市廃棄物減量審
： 広報委員会

リサイクル川柳

◎ごみ減量に
効く痩せぐすり見当たらず

◎リデュース(発生抑制)を
掲げて 消費を煽る国

◎ごみ有料

皮無しスイカはないですか
(改修業者)

編集後記

小池様、直言拜聴に御寄稿下さいますありがとうございます。これからも再資協は市民の皆さんと行政と一体となって働いて、リサイクル活動を推進して参ります。上海、北京の再生資源の業界は、供給先の増大と販売価格の上昇で、活気に満ちたものとなっていきます。残念なのは、現地の再生資源という職業がまだまだ低く蔑視されている事です。私達の仕事は、市民生活、地域、環境に絶対に必要であり、大切である事が理解されていらないようです。(吉浦高志)